

令和3年度 園芸施設・産地現地研修会のご案内

開催日 令和3年11月25日(木)

開催場所 福島県いわき市・大熊町

主催 一般社団法人日本施設園芸協会

目的

コロナ禍にあります。できる限りのコロナ対策を講じる中で、今年度も研修会を企画しました。農水省から、みどりの食料システム戦略(令和3年5月)が示されましたが、施設園芸としても今後取り組まなければならない課題・目標がわかりやすく明示されています。コスト低減、生産性向上、収益性向上などの経営的課題に加え、持続可能な農業生産や地球温暖化対策(ゼロエミッション化)にも今後どのように進めるか皆様と考えていきたいと思っております。

本研修会は、生産者、指導者、研究者、農業団体、施設資材製造・販売企業、農産物販売企業等の皆様方に、上記のような課題解決とともに、最新の施設園芸に関する情報交換や新技術等の紹介を通して、施設園芸の発展にお役立ていただくことを目的に開催しています。

今回は福島県の浜通り地方で震災復興を担っている大規模施設園芸および先進経営生産法人にお伺いし、震災復興の現況とともに施設園芸の生産と経営、特徴的な取り組みについて研修します。

○ 集合: JRいわき駅南口 ファミリーマートいわき駅前店前 11:45(11:50出発)

◇ 株式会社ネクサスファームおおくま(大熊町) 13:00 ~ 14:30

震災復興を目指す大熊町とイチゴ栽培施設の賃貸借契約を結び、2019年からいちご生産を開始。2.9haの太陽光・人工光併用型植物工場で、高設養液栽培による周年生産は、環境制御システムを活用し、年間を通して生産好適環境を作り出し、夏秋品種、冬春品種とも栽培。業務向けニーズの高い夏秋いちごの生産販売は特徴である。

◇ 株式会社JRとまとランドいわきファーム(いわき市) 15:30 ~ 16:45

JR東日本と地域の農家が連携して共同出資し、2016年に生産施設がいわき市四倉町に完成。太陽光利用型植物工場として生産施設1.7ha(敷地2.5ha)で、多品種のトマトを栽培。隣接するワンダーファームには、レストラン「CROSS WONDER DINING」、直売所「森のマルシェ」、加工施設があり、6次産業化優良事例です。

○ 解散: JRいわき駅 17:30(予定)

募集人数 : 40名(申込期限は11月12(金)、先着順締切りとします)

参加費 : (一社)日本施設園芸協会 会員 8,000円

(予定) : 野菜流通カット協議会・青果物選果予冷施設協議会会員 10,000円

: 一般(非会員) 12,000円

コロナ感染対策を別紙のとおり実施します。昼食を済ませて集合ください。参加申込みは、別紙参加申込書を(一社)日本施設園芸協会あてFAXまたはe-mailでお送りください。その後、参加受付書を送りますので、参加費を当協会に指定口座にお振り込み下さい。

【問い合わせ先】

一般社団法人 日本施設園芸協会

TEL:03-3667-1631 FAX:03-3667-1632 E-mail:engei@jgha.com